

市民意識調査に基づく中津川市における 若者の定住推進施策の課題の検討

Reviews on Challenges of the Settlement Promotions for Young People in Nakatsugawa based on the Civil Recognition Survey

大須賀元彦・富田 宏・須栗 大

Motohiko Osuka, Hiroshi Tomida and Masaru Suguri

要 約

岐阜県中津川市は平成27年度から令和8年度にかけて総合計画事業を計画し、様々な施策を展開している。中津川市は特に若者の定住推進を今後の重要な課題として捉えている。その取り組みを評価する一環として令和4年度に中津川市が実施した「令和4年度中津川市総合計画後期事業実施計画策定のための市民意識調査」の結果から中津川市における若者の定住推進施策の課題を検討するために筆者らが分析を行った。分析の結果、働く環境としての魅力に関する質問項目等について若者と40歳以上で回答結果に有意な差が見られた。この点について中津川市が令和4年度に実施した産業振興に対する市民の満足度のスコアを分析したところ、若者の方が40歳以上よりも各スコアの数値が高いものの、「商業振興・中心市街地活性化の取り組み」と「企業立地・雇用対策の取り組み」の満足度がマイナスのスコアを記録した。今後はより適切な施策に基づく事業の展開が必要であると共に、若者の定住推進を評価する指標の開発等が求められる。

キーワード：中津川市，若者，定住推進，市民意識調査

I. はじめに

若者の定住推進は多くの地方自治体で課題となっている。中京学院大学経営学部が位置する岐阜県中津川市は長期的な総合計画を立案し、実施している。近年、中津川市は移住したい自治体としてもメディア等でも取り上げられており、若者の定住推進施策にも力を入れている¹。

このような背景もあり、中津川市は令和元年から令和4年度までに実施された「中津川市総合計画中期事業実施計画（以下、中期事業実施計画）」に対する市民の意識を把握するために令和4年度に「令和4年度中津川市総合計画後期事業実施計画策定のための市民意識調査」（以下、市民意識調査）を実施した²。

「中津川市と中京学院大学との連携に関する協定」に基づき、中京学院大学に「リニア」、「若者

の定住」、「地域コミュニティ」をキーワードとした上記の調査について分析依頼があり、その経過報告が「令和四年度第四回中津川市総合計画推進委員会」にて行われた。同委員会での経過報告では「若者の定住」を含めていくつかの課題が示唆された³。

そこで、本研究の目的は中津川市における若者の定住推進施策の課題を検討することである。そのため、令和4年度に実施された市民意識調査から中期事業実施計画における若者の定住推進に関する施策を評価していく。

II. 中津川市における定住推進施策を含む各種計画及び戦略

中津川市は平成27年に「中津川市総合計画」を取りまとめ、平成27年度から平成30年度を「前

期),平成31年度から令和4年度を「中期」,令和5年度から令和8年度を「後期」と区分し,それぞれの施策を構想した(中津川市,2014a,p.17).それら4年ごとの事業実施計画の中で若者の定住に関する施策が言及されている⁴.

また同時期に総合戦略として「中津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が平成27年度から毎年改定を重ねながら実施され,そこでも若者の定住推進の施策が取り上げられてきた.この総合戦略は令和5年度に「中津川市総合計画後期事業実施計画(以下,後期事業実施計画)」へ統合されることを前提に実施されてきたものである(中津川市,2022a,p.15).そこで以下ではこれまでに実施されてきた「中津川市総合計画前期事業実施計画(以下,前期事業実施計画)」及び中期事業実施計画の中での若者の定住推進の施策に焦点を当てその取り組み等を整理していく.

まず,前期事業実施計画において「若者」に関する記述は18箇所あり⁵,若者を含めた定住推進は主に「基本理念(3)活気あふれるまち中津川」の項目の中で提示されている.その政策の柱として「①働く場所があり住み続けられるまち」が目標として掲げられ,その目標を達成するために「工業振興」,「商業振興」,「農業振興」,「林業

振興」,「地場産業振興」の施策が策定されている.例えば,工業振興の施策であれば,「安定した雇用の創出」のために「雇用対策事業」と「若者の地元定住推進事業」が実施された(中津川市,2014b,pp.63-86).また,「中津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても,「地元就職情報配信事業」や「企業誘致推進事業」はリニア開業を見据え,若者のニーズにマッチした幅広い企業の誘致をするための事業として計画された(中津川市,2015,pp.13-15).

このように,いくつかの重点項目の一部として若者の定住施策に関する記述が見られる状況であった.

次に中期事業実施計画を概観していく.中期事業実施計画においては重点施策が2つあり,1つ目は「リニア開業に向けた基盤整備」,2つ目は「若者の地元定住・移住促進の強化」となっており,中期事業実施計画において中心的な施策として取り上げられている(中津川市,2018,pp.5-10).後者の重点目標の数値として中津川市は「転入人口・転出人口の差引き(40歳以下)」を現状値の「マイナス189人/年」から令和4年度の目標値を「マイナス155人/年」にすると共に,「誇りや愛着を感じる市民の割合」を現状値77.4%(平成

表1.5つの視点と事業名及び事業の種別

5つの視点	事業名	新規事業数	拡大事業数
①若者の働く場の創出	若者の地元定住推進事業	1	0
	企業誘致推進事業(基盤整備関係以外)	1	0
	新規就農者総合支援事業	0	0
	木材関連産業人材確保事業	2	0
	中津川市の未来を担う人材育成事業	1	0
②子育てしやすい環境の整備	子育て支援事業	4	0
	産科医療体制充実事業	0	0
③若者の住まいの確保	中津川に住もうサポート事業	0	1
④当市の魅力度向上とPR	観光推進事業	2	0
	観光広域連携事業	2	2
	体験型観光推進事業	0	1
	外国人観光促進事業	2	1
⑤活力ある地域づくり	中心市街地活性化推進事業(施設整備関係以外)	2	0
	市民協働推進事業	0	1

出典:中津川市(2018,pp.8-10)より筆者作成

30年度)から令和4年度の目標値を85%とした。また目指すまちの姿として、「①若者の働く場の創出」、「②子育てしやすい環境の整備」、「③若者の住まいの確保」、「④当市の魅力度向上とPR」、「⑤活力ある地域づくり」の5つの視点を挙げた(中津川市, 2018, p. 8)。

それらの視点を実現する主な事業名をまとめたものが表1である。「若者の地元定着・移住促進の強化」に向けて、これらの事業が戦略的に取り組まれている。なお新規事業は17事業、そして拡大事業は6事業となっている。これら事業の推進を通して「転入人口・転出人口の差引き(40歳以下)」の数値の改善や、「誇りや愛着を感じる市民の割合」の向上が試みられた。

しかし、これらの事業の中で、観光に関する取り組みを中心に多くの期間が新型コロナウイルス感染拡大の時期と重なり、事業自体の中止や延期等が余儀なくされた(中津川市総合計画推進委員会, 2020)。

その一方で、中期事業実施計画の「若者の地元定着・移住促進の強化」の目標で掲げられている「転入人口・転出人口の差引き(40歳以下)」の値は令和4年度時点で「マイナス78人/年」となり、目標の「マイナス155人/年」を達成している⁶。「誇りや愛着を感じる市民の割合」に関しては市民意識調査の結果から、「中津川市に誇りや愛着を感じますか」の問いに対して「はい」と回答した割合が令和2年度は74.2%だったが、令和4年度には76.2%となったものの(中津川市, 2022b, p. 11)⁷、先述の目標値には達していない。そこで、以下では中津川市の中期事業計画の重点施策である若者の定住推進に向けた取り組み等について評価をしていく。

Ⅲ. データセットと分析方法

市民意識調査は中津川市政策推進部政策推進課が主体となり、令和4年5月から6月にかけて中津川市内に住む無作為によって抽出された18歳以上の2500人の市民に対して行われた。アンケートの調査票は郵送配付、郵送回収もしくはイ

ンターネットを活用して回答され、有効回収率は51.0%であった(中津川市, 2022b, p. 3)。本研究の分析に際して中津川市と中京学院大学との連携協定に基づき、市民意識調査のローデータが中京学院大学に提供された。

アンケートの質問項目は問1から問7までであり、問1は中津川市への思いに関する項目、問2は子育て、福祉、地域社会に関する項目、問3は健康づくりに関する項目、問4は女性の市外流失対策に関する項目、問5は中津川市が進めている政策に対する現在の満足度と今後の必要性に関する項目、問6は回答者の属性に関する項目、問7はまちづくりに対する意見等(自由記述)となっている⁸。

中津川市における施策上の若者の定義は明確に定められていないが、40歳以下を若者として捉えている事業実施計画もあることから⁹、本研究ではアンケートの属性のカテゴリーを考慮し、18歳から39歳を「若者」と定義した。またそれ以外を「40歳以上」とすることで、2つのグループに分けた。

次に若者の定住推進の課題に対する理解を深めるために、中でも若者の定住推進に関連が深いと考えられる「中津川市への思い」と「産業振興の満足度」について分析を試みた。その理由として若者と40歳以上で回答結果が有意に異なる場合、世代ごとに施策の有効性や今後必要となる事業等を検討していく必要があることから「中津川市への思い」の質問項目において「はい」、「いいえ」で回答する設問(その理由を除く)について、若者と40歳以上で回答結果に有意な違いがあるのかを χ^2 検定で分析した。分析はIBM SPSS Statisticsバージョン29を用いた。有意水準は5%とし、有意差が確認された項目についてはその理由を世代ごとに整理した。最後に、先述の目指すべきまちの姿と関連する課題として「産業振興に関すること」に対する「現在の満足度」について若者と40歳以上で回答の比較を行った。

Ⅳ. 「中津川市への思い」について

「中津川市への思い」のカテゴリーに含まれる

5つの問いについて、「はい」または「いいえ」で回答する設問について若者と40歳以上でクロス集計をし、 χ^2 検定を行った(表2参照)。その結果、「中津川市は暮らしやすいと思いますか。」、「中津川市に住み続けたいと思いますか。」、「中津川市の暮らしに不安を感じますか。」の3項目において、若者と40歳以上ともに「はい」の回答が「いいえ」の回答よりも多く、若者と40歳以上の2グループ間に有意差が見られた。また、「中津川市は働く環境として魅力を感じますか。」の項目は、若者と40歳以上ともに「いいえ」の回答が「はい」の回答よりも多く、若者と40歳以上の2グループ間に有意差が見られた。一方で、「中津川市に誇りや愛着を感じますか。」の項目は、若者と40歳以上ともに「はい」の回答が「いいえ」の回答よりも多かったものの、若者と40歳以上の2グループ間に有意差は見られなかった。このように「中津川市への思い」のカテゴリーに含まれる5つの問いにおいて若者と40歳以上の回答傾向は同じであったが、5項目の中4項目で世代によって回答結果に有意差があることが明らかとなった。また「中津川市は働く環境として魅力を感じますか。」と「中津川市の暮らしに不安を感じますか。」に対しては否定的な意見が肯定的な意見を上回っていた。

なお、有意差が見られた「中津川市への思い」の項目について否定的な回答の理由をまとめたものが表3である。「中津川市は暮らしやすいと思いますか。」と「中津川市に住み続けたいと思いますか。」は否定的な回答(「いいえ」と選択した)の理由に注目すると上位2つは「交通・通勤・通学の利便性」と「買い物の利便性」であり、両年代に共通していた。

次に「中津川市は働く環境として魅力を感じますか。」の若者の否定的な回答理由(「いいえ」と選択した)で最も多かったのが「給与、賃金」、次に多かったのが「職種の選択肢」であった。一方40歳以上は「職種の選択肢」が最も多く、次いで「給与、賃金」であった。この点に関しては従来の事業計画の中でも「若者の働く場」が課題として認識されているものの(中津川市総合計画推進委員会第2部会, 2022, p. 3)¹⁰,十分に改善されていないことが回答に影響を及ぼしたと考えられる。

最後に、「中津川市の暮らしに不安を感じますか。」について若者で最も多かった否定的な回答(「はい」と選択した)の理由は、「人口減少(少子・高齢化)」,次いで「経済(収入, 税負担)」であった。40歳以上の場合、最も多かったのが「健康(病院, 介護)」で、次いで「人口減少(少子・高齢化)」であった。

表2. 「中津川市への思い」に対する回答と年齢との関連性

		はい	いいえ	χ^2	p (両側)
中津川市は暮らしやすいと思いますか。	若者 (n=226)	155	71	7.52	.006
	40歳以上 (n=981)	758	223		
中津川市に誇りや愛着を感じますか。	若者 (n=226)	175	51	1.22	.269
	40歳以上 (n=979)	790	189		
中津川市に住み続けたいと思いますか。	若者 (n=227)	156	71	37.35	<.001
	40歳以上 (n=991)	850	141		
中津川市は働く環境として魅力を感じますか。	若者 (n=227)	67	160	7.53	.006
	40歳以上 (n=938)	369	569		
中津川市での暮らしに不安を感じますか。	若者 (n=227)	124	103	27.03	<.001
	40歳以上 (n=1000)	723	277		

注：未回答や無効回答を除外して算出。「はい」「いいえ」の数値は観測度数を意味する。

出典：市民意識調査のローデータに基づき筆者作成

「中津川市への思い」の項目の中で最も否定的な回答割合が高く、特に優先的に解決すべき項目として「中津川市は働く環境として魅力を感じますか。」は年代を問わず否定的な意見が多いが、若者が否定的に回答した割合は約70%と40歳以上のその割合(約60%)よりも高かった。したがって、若者の定住推進を目指すためにも魅力的な賃

金を提供できる企業の存在やそれら企業等を含め様々な職種を若者に提供できる環境づくりが中津川市には求められているといえよう。

V. 産業振興に対する現在の満足度について

中津川市の思いに対して否定的な回答が多かった働く環境について、現在行われている「産業振

表3. 否定的な回答の理由(複数回答可)

「中津川市は暮らしやすいと思いますか。」に対して「いいえ」と回答した人がその理由として選択した項目							
	自然環境	交通・通勤・通学の利便性	買物の利便性	住み慣れていない	子育て・教育の環境	その他	
若者 (n=71)	3	45	46	7	18	14	
40歳以上 (n=223)	8	157	134	17	57	47	
「中津川市に住み続けたいと思いますか。」に対して「いいえ」と回答した人がその理由として選択した項目							
	自然環境	交通・通勤・通学の利便性	買物の利便性	住み慣れていない	子育て・教育の環境	その他	
若者 (n=71)	0	44	42	7	11	17	
40歳以上 (n=141)	6	72	66	14	22	41	
「中津川市は働く環境として魅力を感じますか。」に対して「いいえ」と回答した人がその理由として選択した項目							
	職種の選択肢	企業の立地数	労働環境、働きやすさ	通勤の利便性	就労支援、子育て支援	給与、賃金	その他
若者 (n=160)	86	32	48	45	30	99	5
40歳以上 (n=569)	296	197	123	186	94	268	31
「中津川市での暮らしに不安を感じますか。」に対して「はい」と回答した人がその理由として選択した項目							
	経済(収入、税負担)	健康(病院、介護)	人口減少(少子・高齢化)	その他			
若者 (n=124)	75	54	80	8			
40歳以上 (n=723)	369	483	425	51			

出典：市民意識調査のローデータに基づき筆者作成

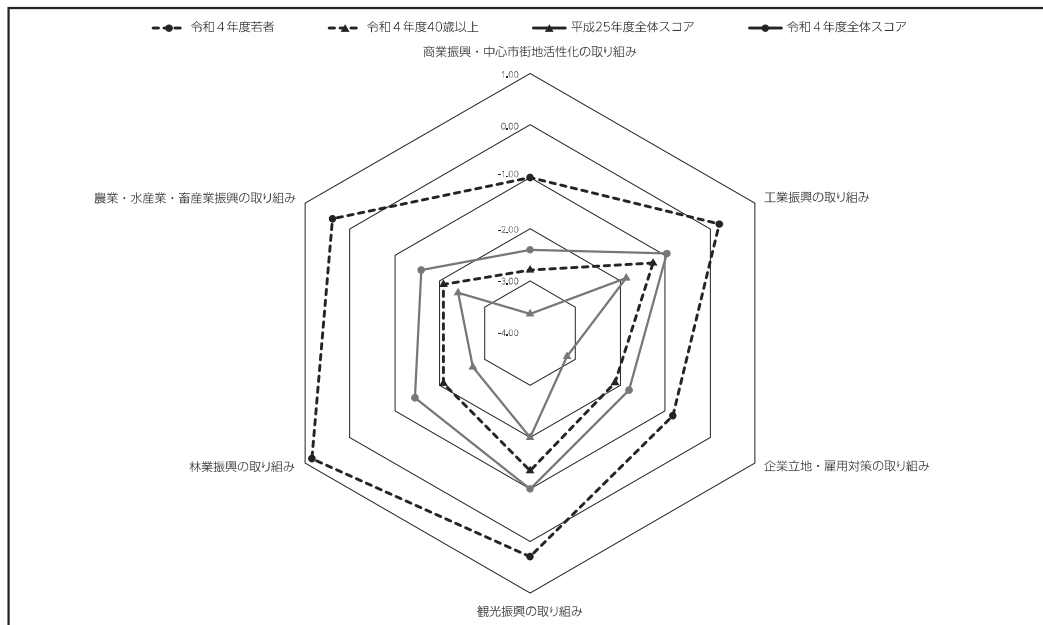


図1. 産業振興に関することに対する満足度スコア

注：平成25年度全体スコアと令和4年度全体スコアの数値は中津川市(2022b, p. 26)より引用し、「令和4年度若者」、「令和4年度40歳以上」の数値は中津川市より提供された市民意識調査のローデータより算出した。中津川市の算出方法を参考に、「とても満足」を10点、「まあ満足」を5点、「やや不満」を-5点、「とても不満」を-10点とし、各点数に回答数を乗じ、合計得点を算出した。またその値を無回答を除く回答数で除すことでスコアを算出した¹⁾。

出典：中津川市(2022b)及び市民意識調査のローデータに基づき筆者作成

興に関すること」の施策の満足度を若者と40歳以上で比較しながら分析をしていく。図1が示すように平成25年度に実施された全体スコアと令和4年度の全体スコアを比較するとどの項目も改善していることが示された。

次に令和4年度のスコアを若者と40歳以上で算出したところ、「商業振興・中心市街地活性化の取り組み」の満足度のスコアは両世代とも他の取り組みと比較して最も低かった。また全体的に若者の方が40歳以上よりも各スコアの数値が高いことが明らかとなった。若者の場合、マイナスのスコアを記録したのは上記の「商業振興・中心市街地活性化の取り組み」の満足度と「企業立地・雇用対策の取り組み」の満足度であった。

「商業振興・中心市街地活性化の取り組み」と「企業立地・雇用対策の取り組み」の両年代のスコアが相対的に低い理由として表3が示すように「職業の選択肢」や「給与、賃金」に対する否定的回答の多さと連動しているように考えられる。ただし世代間格差に対する要因については今後詳細な分析が必要である。

VI. 今後の若者の定住推進施策に向けて

中津川市では上述してきたようにこれまでに様々な計画を中長期的に実施してきており、その中で若者の定住推進に特化した施策にも力点を置いてきた。「中津川市への思い」について世代間の回答結果の違いを分析したところ、4つの項目で回答結果に有意な差があった。この結果は中津川市がこれまでの若者に特化した施策を実施してきたことが影響を及ぼしている可能性がある。しかし、「中津川市への思い」についての肯定的な意見よりも否定的な回答が多かった項目の理由について概観したところ、若者の多くが「給与、賃金」や「職種を選択肢」を指摘していることが明らかとなった。この点について中津川市の産業振興の満足度を平成25年度と令和4年度のスコアで比較したところ、どの項目もスコアが改善していた。また令和4年度では若者と40歳以上の数値を比較したところ、全項目において若者の数

値が40歳以上のスコアよりも高いことが明らかになったが、その要因については今後の研究課題である。その一方で、どの世代も「産業振興に関すること」の施策の改善が必要である。特に若者でマイナスの値を取った2つの項目である「商業振興・中心市街地活性化の取り組み」と「企業立地・雇用対策の取り組み」に早急な議論が望まれる。そのため中期事業実施計画における5つの視点の中でも「④若者の働く場の創出」及び「⑤活力ある地域づくり」に対する事業を後期事業実施計画等において新たに実施していくことも必要であろう。

中津川市では中期事業実施計画において若者の定住推進を重点課題として捉え若者に特化した施策を行ってきたが、中津川市への思いについての項目の「中津川市に誇りや愛着を感じますか。」に関しては目標値に達しておらず、また世代間での回答結果に有意な差が見られなかったため、若者に対して有効な施策を実施できていたかは不明である。そのことを踏まえて今後は世代ごとの施策の有効性を捉えられるような適切な指標の開発やその指標を用いた目標設定が求められる。

本研究では中津川市に居住している18歳以上の市民を対象にしたアンケート結果を分析してきたが、若者の人数が相対的に少ない地域について現状を十分に評価できていない可能性があり、今後の課題の1つである。またUターンやIターン検討者あるいは実際に中津川市から転出した若者を対象としたアンケート及びヒアリングの実施等に基づく分析も若者の定住推進の示唆を得るために必要不可欠であろう。

VII. 謝辞

本研究に際して、中津川市政策推進部政策推進課の方々をはじめ多くの中津川市役所の方々にご協力を頂きました。ここに感謝申し上げます。なお本研究に関する誤りは筆者に責任があります。

VIII. 付記

本研究は中京学院大学「令和5年度地域研究」の助成を受けて実施した。

注

- 1 田舎暮らしの本 Web (2023) によれば、中津川市は「若者世代・単身者部門」(東海エリア)で1位になったこと等を報告している。詳しくは宝島社が運営する田舎暮らしの本 Web の記事を参照のこと。
- 2 市民意識調査の概要や目的等は中津川市「令和4年度中津川市市民意識調査の結果を報告します」を参照のこと。
- 3 令和5年3月に開催された「令和四年度第四回中津川市総合計画推進委員会」にて大須賀が経過報告を行った。なお須栗は当委員会の委員長を務めている。
- 4 各年度の事業の詳細は中津川市(2014a)「総合計画基本構想」を参照のこと。
- 5 前期事業実施計画を「若者」で検索し、カウントした。
- 6 それら数値は筆者らのメールによる質問に対する中津川市政策推進部政策推進課の回答結果に基づいている。
- 7 令和4年度の市民意識調査の調査結果のまとめでは一部の項目については令和2年度と令和4年度の比較を行っている。詳しくは中津川市(2022b)を参照のこと。なお「令和4年度中津川市総合計画後期事業実施計画策定のための市民意識調査(結果まとめ)」の発行年が不明だったため、中津川市政策推進部政策推進課に確認したところ、令和4年との回答を得た。
- 8 アンケート項目の詳細に関しては中津川市(2022b)を参照のこと。問7に関しては中津川市から提供されたアンケート調査票に基づいている。
- 9 中期事業実施計画によれば、重点施策(2)の「若者の地元定着・移住促進の強化」の中で「転入人口・転出人口の差引き」について40歳以下を対象としている(中津川市, 2018, p. 8)。
- 10 中津川市総合計画推進委員会第2部会(2022)の報告書は中津川市総合計画推進委員会(2022)「令和4年度中津川市総合計画推進委員会提言書」の資料と連結しており、通し番号で表記した場合、参照箇所は38ページに該当する。
- 11 算出方法は中津川市(2022b, p. 19)で示されている計算式に準じた。詳しくは中津川市(2022b)を参照のこと。

版12エリア別「住みたい田舎ベストランキング」【愛知・岐阜・三重・静岡】、

<https://inakagurashiweb.com/archives/27189>
(2023年9月26日アクセス)

中津川市「令和4年度中津川市市民意識調査の結果を報告します」、

https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/shisei/policy/cp/cpb_1/18084.html (2023年9月26日アクセス)

中津川市(2014a)「総合計画基本構想」、

https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/material/files/group/4/Zaimu_H260401_kihonkousou.pdf
(2023年9月26日アクセス)

中津川市(2014b)「中津川市総合計画(平成27年度～平成30年度)前期事業実施計画」、

https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/material/files/group/4/Zaimu_20141111_zenkijigyoku.pdf
(2023年9月26日アクセス)

中津川市(2015)「中津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、

https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/material/files/group/4/Seisaku_H290418_sousei-sougousenryaku_kanseiban.pdf (2023年9月26日アクセス)

中津川市(2018)「中津川市総合計画中期事業実施計画(平成31年度～平成34年度)」、

https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/material/files/group/4/seisaku_20181203_keikakusyo.pdf
(2023年9月26日アクセス)

中津川市(2022a)「中津川市総合計画後期事業実施計画 令和5年度～令和8年度 2023～2026」、

<https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/material/files/group/4/koukikeikaku.pdf> (2023年9月26日アクセス)

中津川市(2022b)「令和4年度中津川市総合計画後期事業実施計画策定のための市民意識調査(結果まとめ)」、

<https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/material/files/group/4/2022siminisiki.pdf> (2023年9月26日アクセス)

中津川市総合計画推進委員会(2020)「令和2年度中津川市総合計画推進委員会提言書」、

<https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/material/files/group/4/77988897.pdf> (2023年9月26日アクセス)

中津川市総合計画推進委員会第2部会(2022)「令和4年度中津川市総合計画推進委員会第2部会報告書」、

<https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/material/files/group/4/R4sougoukeikakusuisiniinkaiteigenssyo.pdf> (2023年9月26日アクセス)

参考文献

田舎暮らしの本 Web (2023) 「★最新【東海】2023年